2024 年度
講義概要(シラバス)
2 年生

松江総合医療専門学校

作業療法学科

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	精神医学	2	2	前期

担当教員	朴　盛弘	実務経験	医師として、病院での臨床経験あり

内　　容	心の健康、疾病及び障害について、予防と回復過程の促進に関する知識を合わせて習得し、理解力、観察力及び判断力を養う。

到達目標	①　疫学、予後について説明できる。 ②　病因、症候について説明できる。 ③　評価、検査(画像・生理検査を含む)、診断について説明できる。 ④　リハビリテーション医療について説明できる。 ⑤　その他の治療(精神療法を含む)について説明できる。 ⑥　精神障害の一般的疾患について説明できる。

授業計画

1	精神疾患(精神障害)概論
2	精神疾患(精神障害)概論
3	精神医療と法律1
4	精神医療と法律2
5	精神医療と法律3
6	精神医療と法律4
7	ストレスと疾患・心身症
8	ストレスと疾患・ストレス関連障害
9	症候論1
10	症候論2
11	症候論3
12	症候論4
13	統合失調症
14	感情障害
15	心因反応
16	神経症性障害
17	アルコール依存症、認知症
18	発達障害　他

教 科 書 参 考 書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　精神医学　第４版　上野武治(デジタル教科書) 標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　臨床心理学　　町沢　静夫　執筆 プリント配布
授業方法	講義
使用機材	パソコン、プロジェクター
成績評価	定期試験(100%)
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	整形外科学Ⅰ（総論）	2	2	前期

担当教員	山崎　敦広	実務経験	作業療法士として身体障害分野での臨床経験あり

内　　容	整形外科診療全般を学習し、疾患の理解を深める。

到達目標	①　疫学，予後について説明できる。 ②　病因，症候について説明できる。 ③　評価，検査（画像・生理検査を含む），診断について説明できる。 ④　リハビリテーション医療について説明できる。 ⑤　その他の治療について説明できる。 ⑥　骨関節障害の一般的疾患について説明できる。

授業計画

1	整形外科　基礎科学・概論
2	整形外科　診断学
3	整形外科　検査法
4	整形外科　保存療法
5	整形外科　観血療法
6	外傷総論
7	上肢・胸部外傷
8	下肢外傷
9	脊椎・脊髄損傷
10	感染症
11	手の外科と手の疾患
12	骨系総疾患、代謝性疾患
13	先天性疾患
14	四肢切断・離断
15	整形外科治療Ⅰ

教 科 書 参 考 書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　整形外科学(デジタル教科書)
授業方法	授業用プリント配布/スライド
使用機材	パソコン、プロジェクター
成績評価	定期試験（100％）
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	整形外科学Ⅱ（各論）	2	2	前期

担当教員	陶山　幸弘	実務経験	作業療法士として身体障害分野での臨床経験あり

内　　容	整形外科診療全般を学習し、疾患の理解を深める。

到達目標	①　疫学，予後について説明できる。 ②　病因，症候について説明できる。 ③　評価，検査（画像・生理検査を含む），診断について説明できる。 ④　リハビリテーション医療について説明できる。 ⑤　その他の治療について説明できる。 ⑥　骨関節障害の一般的疾患について説明できる。

授業計画

1	義肢・装具
2	骨端症
3	頸椎疾患
4	腰椎疾患
5	脊椎の変形・奇形・腫瘍
6	股関節疾患
7	膝関節疾患
8	骨軟部腫瘍
9	転移性骨腫瘍
10	肩関節疾患
11	スポーツ障害
12	関節リウマチ
13	末梢神経障害
14	リハビリテーション
15	整形外科治療Ⅱ

教 科 書 参 考 書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　整形外科学(デジタル教科書)
授業方法	授業用プリント配布/スライド
使用機材	パソコン、プロジェクター
成績評価	定期試験（70％）、小テスト（30％）
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	神経内科学Ⅰ（総論）	2	2	前期

担当教員	近藤 威	実務経験	新須磨病院にて医師として勤務

内　　容	神経内科であつかう疾患、症状の理解 診断方法の習得

到達目標	①　疫学，予後について説明できる。 ②　病因，症候について説明できる。 ③　評価，検査（画像・生理検査を含む），診断について説明できる。 ④　リハビリテーション医療について説明できる。 ⑤　その他の治療について説明できる。 ⑥　中枢神経の障害の一般的疾患について説明できる。

授業計画

1	神経内科学総論
2	脳、神経系について
3	大脳の部位と働き、局在性とネットワーク
4	意識、脳神経の診かた
5	運動、感覚の診かた
6	運動、感覚、腱反射、失調
7	運動、感覚、腱反射、失調
8	失語、失認、失行
9	失語、失認、失行
10	神経内科学検査
11	脳血管障害
12	脳血管障害
13	認知症
14	認知症
15	まとめ

教 科 書 参 考 書	①標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　神経内科学(デジタル教科書) ②ベッドサイドの神経の診かた　第 18 版 ③病気がみえる vol.7　脳・神経
授業方法	講義
使用機材	パソコン、プロジェクター、ビデオ、DVDも時に使用
成績評価	定期試験 100％
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	神経内科学Ⅱ（各論）		2	2	前期
担当教員	福代　大輔	実務経験	作業療法士として身体障害分野で実務経験あり。			
内　　容	神経内科学領域の疾患の理解					
到達目標	①　疫学，予後について説明できる。 ②　病因，症候について説明できる。 ③　評価，検査（画像・生理検査を含む），診断について説明できる。 ④　リハビリテーション医療について説明できる。 ⑤　その他の治療について説明できる。 ⑥　中枢神経の障害の一般的疾患について説明できる					

授業計画

1	錐体外路疾患　不随意運動　パーキンソン病
2	多発性硬化症
3	嚥下障害
4	水頭症
5	筋委縮性側索硬化症
6	ギランバレー症候群
7	末梢神経障害
8	重症筋無力症
9	ボツリヌス中毒症
10	筋ジストロフィー
11	多系統萎縮症
12	認知症
13	脳画像
14	高次脳機能障害
15	まとめ

教 科 書 参 考 書	①標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　神経内科学(デジタル教科書) ②ベッドサイドの神経の診かた　第 18 版 ③病気がみえる vol.7　脳・神経
授業方法	講義
使用機材	パソコン、プロジェクター、ビデオ、DVDも時に使用
成績評価	定期試験 100％
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	リハビリテーション医学	2	2	後期

担当教員	北山　朋宏	実務経験	作業療法士として臨床業務に従事

内　　容	リハビリテーションに関わる障害の評価と治療を学ぶ。
到達目標	①　リハビリテーション医学の定義と歴史について説明できる。 ②　リハビリテーション医学の特徴について説明できる。 ③　医学的情報（病理・生理・画像診断を含む）の評価について説明できる。 ④　疫学，予後について説明できる。 ⑤　病因，症候について説明できる。 ⑥　評価，検査（画像・生理検査を含む），診断について説明できる。 ⑦　リハビリテーション医療について説明できる。 ⑧　その他の治療について説明できる。

授業計画

1	リハビリテーション治療学
2	リハビリテーション治療学
3	リハビリテーション医学
4	評価と診断
5	評価と診断
6	脊髄損傷
7	切断
8	内部障害
9	外傷性脳損傷と高次脳機能障害
10	摂食・嚥下障害
11	難病
12	小児・CP
13	循環器疾患、呼吸器
14	地域包括ケアシステムについて～PT・OT に求められることは～
15	地域包括ケアシステムについて～PT・OT に求められることは～

教 科 書 参 考 書	最新リハビリテーション医学　第 3 版，医歯薬出版，電子版
授業方法	講義
使用機材	パソコン、プロジェクター、ビデオ
成績評価	定期試験(100%)
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	一般臨床医学		1	2	後期
担当教員	澤田　勝寛	実務経験	医療従事者として実務経験あり			
内　　容	臨床現場で必要となる医用画像の見かた、救急措置法、予防医学について学ぶ。 医用画像については、画像所見をとらえるための基礎知識を学ぶ。 救命法では、医療従事者として求められる救命救急措置法として、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等について実習を通して学ぶ。 予防医学では、疾病予防と健康管理の在り方について講義を通して学ぶ。					
到達目標	医用画像の特徴を説明できる。 救命措置法について説明し、実施ができる。 第一次、第二次、第三次予防について説明できる。 ライフスタイルアセスメントについて説明できる。 指導のポイントについて説明できる。					

授業計画

1	医用画像の基礎
2	救急医学総論①　一次救命処置
3	救急医学各論②　急病時の応急手当
4	救急医学各論③　外傷の手当（止血・包帯）
5	救急医学各論④　骨折の手当（固定）
6	救急医学各論⑤　搬送
7	予防医学①　第一次予防から第三次予防
8	予防医学②　ライフスタイルアセスメントと予防における生活指導

教 科 書 参 考 書	①標準作業療法学・作業療法学・言語聴覚障害学　別巻　画像評価　医学書院　電子版 ②標準作業療法学・作業療法学・言語聴覚障害学　別巻　脳画像　医学書院　電子版 ③標準作業療法学・作業療法学・言語聴覚障害学　別巻　がんのリハビリテーション　医学書院　電子版 ④最新リハビリテーション医学　第 3 版, 医歯薬出版, 電子版
授業方法	講義、演習、必要に応じて実技
使用機材	パソコン、プロジェクター、ビデオ
成績評価	定期試験 100％
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	栄養学		2	2	前期
担当教員	小林 裕太	実務経験	大学教員として、大学、専門学校での教育経験あり			
内　　容	リハビリテーションを行っている障害者や高齢者の多くに低栄養を認める。栄養改善が機能やADL の改善に必要であるため、リハビリテーション栄養の考え方と実践が重要となる。リハビリテーション栄養に必要な知識を理解する。					
到達目標	栄養・食生活、身体活動・運動、休養と健康の関連について説明できる。 各栄養素の構造と機能について説明できる。 各栄養素と関連疾患について説明できる。					

授業計画

1	リハビリテーションにおける栄養知識の重要性
2	栄養の基礎、炭水化物
3	たんぱく質
4	脂質
5	ビタミンとミネラル
6	核酸と遺伝子
7	リハビリテーションと栄養
8	侵襲時の栄養、栄養ケアプロセスの実際
9	主な病態の栄養療法 1
10	主な病態の栄養療法 2
11	主な病態の栄養療法 3
12	主な疾患の栄養療法 1
13	主な疾患の栄養療法 2
14	主な疾患の栄養療法 3
15	栄養関連事項

教 科 書 参 考 書	リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎　医歯薬出版　栢下淳・若林秀隆　編著　電子版
授業方法	講義
使用機材	パソコン
成績評価	講義の際の小テスト(50%)と定期試験(50%)で評価する。
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	薬理学		2	2	後期
担当教員	小林　裕太	実務経験	大学教員として、大学、専門学校での教育経験あり			
内　　容	薬物の作用機序や投薬方法、体内動態に関する基本的事項を理解した上で、対象疾患に関連した薬物療法の考え方について講義する。あわせて薬物の副作用や多剤服用症状についても学習する。					
到達目標	薬物の作用機序、投薬方法、体内動態について説明できる。 作業療法で遭遇する疾患に対する薬物療法について説明できる。 薬物の副作用について説明できる。					

授業計画

1	総論 1:薬理学の概念、薬物受容体、薬理作用について
2	総論 2:薬物治療の基礎知識、薬効に影響を与える要因について
3	総論 3:与薬経路、薬の有害作用について
4	薬物体内動態、
5	炎症、免疫関連疾患と治療薬
6	感染症
7	末梢性神経系疾患治療薬
8	中枢性神経治療薬 1:向精神薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬
9	中枢性神経治療薬 2:全身麻酔薬、催眠薬と抗不安薬、麻薬性鎮痛薬
10	心臓・血管系作用薬 1:高血圧治療薬、利尿薬、脂質異常症治療薬、血液造血系作用薬
11	心臓・血管系作用薬 2:うっ血性心不全治療薬、抗不整脈薬、強心薬、狭心症治療薬
12	疼痛の制御と薬物療法
13	代謝性疾患治療薬:内分泌疾患治療薬、生殖器系作用薬、ホルモンおよびホルモン拮抗薬、ビタミン
14	呼吸器系・消化器系作用薬:喘息治療薬、鎮咳薬、消化器系疾患治療薬
15	がんとその治療、消毒薬

教 科 書 参 考 書	リハベーシック薬理学・臨床薬理学　医歯薬出版　内山靖・藤井浩美・立石雅子編　電子版
授業方法	講義
使用機材	パソコン
成績評価	講義の際の小テスト(50%)と定期試験(50%)で評価する。
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門基礎分野	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	地域リハビリテーション学	2	2	前期

担当教員	石倉　健一・田中　雅文	実務経験	作業療法士として業務に従事

内　　容	地域で作業療法を実践していくため、地域の特徴や地域で生活する意味を障害の有無に関わらず捉える視点、法制度について学ぶ。また、地域で生活する障害者の生活を支え、地域包括ケアに貢献できる作業療法士として必要な知識、技能を理解する。 近隣施設での実習、認知症サポーター養成講座への参加、車椅子の体験学習等も行っていく。
到達目標	①　地域リハビリテーションを理解する上で必要なノーマライゼーションや制度、社会資源、役割などを学び説明できるようになる。 ②　地域における社会生活支援について学び、説明できるようになる。 ③　車椅子の基本的な操作方法や介助方法を理解、習得する。

授業計画

1	総論：地域とは何か①	石倉　健一
2	総論：地域とは何か②	石倉　健一
3	総論：地域医療とは何か①	石倉　健一
4	総論：地域医療とは何か②	石倉　健一
5	総論：地域リハビリテーションとは何か①	石倉　健一
6	総論：地域リハビリテーションとは何か②	石倉　健一
7	地域における連携と協働について　多職種協働について①	石倉　健一
8	地域における連携と協働について　多職種協働について②	石倉　健一
9	車椅子の構造、基本的な操作方法	田中　雅文
10	車椅子の体験　屋外での車椅子操作および介助方法	田中　雅文
11	認知症サポーター養成講座①	田中　雅文
12	認知症サポーター養成講座②	田中　雅文
13	高齢者の生活について①	田中　雅文
14	高齢者の生活について②	田中　雅文
15	高齢者の生活について③	田中　雅文

教 科 書 参 考 書	標準作業療法学　専門分野　地域作業療法学　医学書院　電子版
授業方法	講義、演習
使用機材	パソコン・プロジェクター
成績評価	定期試験(100%)
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	基礎作業療法学	基礎作業学Ⅱ（作業分析）	2	2	前期

担当教員	増原　美紀	実務経験	作業療法士として業務に従事

内　　容	・作業遂行における必要な機能とは何かを理解する ・作業療法で治療の手段・目的として用いる作業とは何かを考える

到達目標	①　作業について説明できる。 ②　作業と運動生理機能との関係について説明できる。 ③　作業と心理機能との関係について説明できる。 ④　ライフステージと作業について説明できる。 ⑤　作業分析について説明できる。 ⑥　代表的な作業についての手順が説明できる。 ⑦　代表的な作業の指導ができる。 ⑧　代表的な作業の作業分析ができる。

授業計画

1	作業分析について①
2	作業分析について②
3	作業分析について③
4	作業分析　籐細工
5	作業分析　籐細工
6	作業分析　籐細工
7	作業分析　籐細工
8	作業分析　籐細工
9	作業分析　タイルモザイク
10	作業分析　タイルモザイク
11	作業分析　タイルモザイク
12	作業分析　タイルモザイク
13	演習まとめ①
14	演習まとめ②
15	発表

教科書 参考書	標準作業療法学　専門分野　基礎作業学　医学書院　電子版
授業方法	講義、演習
使用機材	パソコン、プロジェクター
成績評価	定期試験、レポート課題、レポート発表
留意点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	基礎作業療法学	評価セミナー	2	2	前期

担当教員	石倉 健一、増原 美紀 河上 茜 、田中 雅文	実務経験	作業療法士として業務に従事

内　　容	● 作業療法で実際に用いられる作業種目を経験し、基礎技術を学習する。 ● 作業における運動機能、知覚、認知機能、交流・コミュニケーション、リスク管理等から、心身に対する治療意義を考察する。

到達目標	① 対象者の疾患に関する一般的特徴(症状・障害)について説明することができる。 ② 対象者に必要な評価手段(情報収集・面接・観察・検査測定)を選択できる。 ③ 選択した評価手段の目的を説明できる。 ④ 選択した評価手段の方法を説明できる。 ⑤ 評価結果を ICF(心身機能・活動・参加・環境因子・個人因子)に分類できる。 ⑥ 評価結果の肯定的側面・否定的側面について説明できる。 ⑦ 評価結果の相互(因果)関係を ICF を用いて説明できる。

授業計画

1	オリエンテーション 講義①情報収集の必要性、情報の種類、疾病について	全教員
2	講義②個人的背景について	全教員
3	講義③人的環境について	全教員
4	講義④物理的環境について	全教員
5	演習①観察について	全教員
6	演習②面接について	全教員
7	演習③観察・面接・記録について	全教員
8	評価計画立案① 情報のまとめ方について	全教員
9	評価計画立案②	全教員
10	評価計画立案③	全教員
11	ICF 分類①	全教員
12	ICF 分類②	全教員
13	ICF 分類③	全教員
14	発表①	全教員
15	発表② まとめ	全教員

教 科 書 参 考 書	標準作業療法学 専門分野 作業療法 臨床実習とケーススタディ 医学書院 濱口豊太 電子版 標準作業療法学 専門分野 作業療法 作業療法研究法 医学書院 山田孝 電子版 これで解決! PTOTST 臨床実習まるごとガイド 金芳堂 遠藤敏、松田隆治、大塚裕一他 電子版 その他、必要と考えられる教科書

授業方法	講義、演習

使用機材	パソコン、プロジェクター

成績評価	定期試験 30%、個人レポート 35%、グループレポート 30%、発表 5%

留 意 点	評価セミナーは作業療法の基本的技術である面接・観察を重点的に授業に取り入れます。 面接技術や観察については、ポイントを押さえて学び、また自分自身だけの理解だけでなく、グループワークを通じて他者の見解を知ることが大事になってきます。多くの意見を取り入れるようディスカッションを積極的に行いましょう。

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	基礎作業療法学	臨床セミナー	2	2	後期

担当教員	石倉　健一、増原　美紀 河上　茜　、田中　雅文	実務経験	作業療法士として業務に従事

内　　容	身体・精神障害分野のリスクを考えながら、評価に必要な技術とコミュニケーションなどの臨床技術を身につける。また、評価結果の解釈と問題点の抽出、全体像の把握を行う。

到達目標	①　対応すべき課題を焦点化できる。 ②　対象者の予後（将来像）について説明することができる。 ③　対応すべき生活課題を列挙することができる。 ④　対応すべき生活課題に優先順位をつけることができる。 ⑤　作業療法の長期・短期目標を説明できる。 ⑥　各目標の関連性を説明できる。 ⑦　目標に対応した治療プログラムを立案することができる。 ⑧　治療プログラムの目的・方法を説明できる。 ⑨　治療手段に対応した場所の設定ができる。 ⑩　対象者の状態に即した治療時間の設定ができる。

授業計画

1	オリエンテーション・身体障害分野	全教員
2	起居動作・移乗・移動介助方法実技	全教員
3	実技演習	全教員
4	身体障害分野（臨床能力についてオリエンテーション）	全教員
5	身体障害分野（臨床能力試験：オスキー）	全教員
6	身体障害分野症例検討（評価～プログラム立案のながれについて、統合と解釈）	全教員
7	身体障害分野症例検討（統合と解釈、問題点の抽出）	全教員
8	身体障害分野症例検討（統合と解釈、問題点の抽出、目標設定、プログラム立案）	全教員
9	身体障害分野（臨床能力について）	全教員
10	身体障害分野症例検討（再考）	全教員
11	身体障害分野症例検討（再考）	全教員
12	身体障害分野　発表	全教員
13	精神障害分野オリエンテーション、精神障害分野症例紹介	全教員
14	精神障害分野（臨床能力について）	全教員
15	精神障害分野（臨床試験：オスキー）	全教員
16	精神障害分野症例検討（ICF）	全教員
17	精神障害分野症例検討（ICF、統合と解釈）	全教員
18	精神障害分野症例検討（ICF、統合と解釈）	全教員
19	精神障害分野症例検討（統合と解釈、問題点の抽出）	全教員
20	精神障害分野症例検討（統合と解釈、問題点の抽出、目標設定）	全教員
21	精神障害分野症例検討（統合と解釈、問題点の抽出、目標設定）	全教員
22	精神障害分野　まとめ	全教員

教 科 書 参 考 書	標準作業療法学　専門分野　作業療法　臨床実習とケーススタディ　医学書院　濱口豊太　電子版 標準作業療法学　専門分野　作業療法　作業療法研究法　医学書院　山田孝　電子版 これで解決! PTOTST 臨床実習まるごとガイド　金芳堂　遠藤敏、松田隆治、大塚裕一他　電子版 その他、必要と考えられる教科書

授業方法	講義、演習

使用機材	パソコン、プロジェクター

成績評価	事前実習課題遂行（OSCE）：40％（身障 20％、精神 20％） レポート課題・症例報告：60％（身障 30％、精神 30％） ☆出席点は毎回のレポート課題提出、症例報告での態度にて評価を行う。

留意点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	作業療法管理学	作業療法管理学	2	2	後期

担当教員	石倉　健一 福代　大輔	実務経験	作業療法士として業務に従事

内　　容	作業療法の職場管理において求められる管理業務の基本について学ぶ。 作業療法教育及び職業倫理について学ぶ。
到達目標	作業療法の実施とその対価について説明できる。 作業療法の実施後の診療記録と書類管理について説明できる。 作業療法実施における他職種との業務調整、カンファレンスについて説明できる。 作業療法機器の保守点検、安全管理、配置計画について説明できる。 人事考課・労務管理について説明できる。 作業療法士養成教育の歴史、内容について説明できる。 作業療法士国家試験の出題基準について説明できる。 参加型臨床実習、臨床教育の方法について説明できる。 生涯学習制度について説明できる。

授業計画

1	作業療法の実施とその対価（診療報酬・介護報酬）について	石倉健一
2	作業療法の実施後の診療記録と書類管理（電子カルテなど）について	石倉健一
3	作業療法実施における他職種との業務調整（処方内容の確認、他職種への申し送り）について	石倉健一
4	作業療法の実施に関わるカンファレンスについて	石倉健一
5	作業療法機器の保守点検、安全管理について	石倉健一
6	作業療法機器の配置計画（職場環境デザイン）について	石倉健一
7	人事考課（職員採用・昇格審査など）について	石倉健一
8	労務管理（労務時間・休暇管理など）について	石倉健一
9	作業療法士養成教育の歴史について	福代大輔
10	作業療法士養成教育の内容について	福代大輔
11	作業療法士国家試験の出題基準について	福代大輔
12	参加型臨床実習について①	福代大輔
13	参加型臨床実習について②	福代大輔
14	臨床教育について	福代大輔
15	生涯学習制度について	福代大輔

教科書 参考書	標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚学　別巻　リハビリテーション管理学　医学書院　初版 電子版
授業方法	講義
使用機材	パソコン、プロジェクター
成績評価	定期試験
留意点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	作業療法評価学	作業療法評価法Ⅲ	1	2	前期

担当教員	石倉　健一 増原　美紀 河上　茜	実務経験	作業療法士として業務に従事

内　　容	感覚検査、反射及び筋緊張の検査、協調性検査、上肢機能検査と神経障害が生じる代表疾患（脳血管障害、外傷性脳損傷、高次脳機能障害、認知症、神経変性疾患、神経筋疾患、嚥下障害）について実技を通して理解を深める。
到達目標	感覚検査について説明・模倣できる。 反射及び筋緊張の検査について説明・模倣できる。 協調性検査について説明・模倣できる。 上肢機能検査について説明・模倣できる。 神経障害について説明・模倣できる。

授業計画

1	感覚検査①	増原　美紀
2	感覚検査②	増原　美紀
3	感覚検査③	増原　美紀
4	反射検査①	石倉　健一
5	反射検査②	石倉　健一
6	反射検査③	石倉　健一
7	筋緊張の検査	石倉　健一
8	協調性検査①	増原　美紀
9	協調性検査②	増原　美紀
10	上肢機能検査①	増原　美紀
11	上肢機能検査②	増原　美紀
12	脳血管障害の検査①	河上　茜
13	脳血管障害の検査②	河上　茜
14	外傷性脳損傷の検査①	河上　茜
15	高次脳検査①	河上　茜
16	高次脳検査②	河上　茜
17	高次脳検査③	河上　茜
18	認知症の検査	河上　茜
19	神経変性疾患の検査	河上　茜
20	神経筋疾患の検査	河上　茜
21	嚥下障害の検査	河上　茜

教科書 参考書	ベッドサイドの神経の診かた 動作分析　臨床活用講座　バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践　電子版 標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　電子版
授業方法	講義、実技
使用機材	パソコン、プロジェクター
成績評価	定期試験（70%）　実技試験（30%）：感覚検査、反射検査、協調性検査、上肢機能検査、高次脳検査 ※定期試験と実技試験の結果をもって最終成績とする。 定期試験、実技試験は各試験で６割以上の点数を満たすこと。
留意点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	作業療法評価学	作業療法評価法Ⅳ	2	2	後期

担当教員	片山 優子　板倉 理恵 増原 美紀	実務経験	作業療法士として業務に従事
内　　容	面接・観察法、精神障害を生じる代表疾患（統合失調症、気分障害、神経症性障害、パーソナリティ障害、物質依存、てんかんおよびその他の精神障害）の評価について、実技を通して学ぶ。		
到達目標	面接・観察法について説明・模倣できる。 精神障害を生じる代表疾患の評価について説明・模倣できる。		

授業計画

1	精神科分野における評価について	板倉 理恵
2	LASMI	板倉 理恵
3	面接・観察法①	片山 優子
4	面接・観察法②	片山 優子
5	プロセスレコード①	片山 優子
6	プロセスレコード②	片山 優子
7	統合失調症①	増原 美紀
8	統合失調症②	増原 美紀
9	気分障害①	増原 美紀
10	気分障害②	増原 美紀
11	神経症性障害①	増原 美紀
12	神経症性障害②	増原 美紀
13	パーソナリティ障害①	増原 美紀
14	パーソナリティ障害②	増原 美紀
15	摂食障害①	増原 美紀
16	摂食障害②	増原 美紀
17	物質依存①	増原 美紀
18	物質依存②	増原 美紀
19	てんかん①	増原 美紀
20	てんかん②	増原 美紀
21	まとめ	増原 美紀

教科書 参考書	標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　電子版
授業方法	講義・演習
使用機材	パソコン、プロジェクター
成績評価	定期試験 100％
留意点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	作業療法評価学	作業療法評価法Ⅴ	2	2	後期

担当教員	福代　大輔、河上　茜	実務経験	作業療法士として業務に従事

内　　容	作業療法を行う上で必要となる医用画像の読み取り方を学ぶ。 また、各疾患に特徴的な画像所見の特徴を学ぶ。

到達目標	画像検査について説明できる。 運動器障害の医用画像について説明できる。 神経障害の医用画像について説明できる。 内部疾患の医用画像について説明できる。 精神障害の医用画像について説明できる。

授業計画

1	医用画像の基礎①	河上　茜
2	医用画像の基礎②	河上　茜
3	運動器障害の医用画像①	河上　茜
4	運動器障害の医用画像②	河上　茜
5	運動器障害の医用画像③	河上　茜
6	神経障害の医用画像①	福代　大輔
7	神経障害の医用画像②	福代　大輔
8	神経障害の医用画像③	福代　大輔
9	神経障害の医用画像④	福代　大輔
10	神経障害の医用画像⑤	福代　大輔
11	内部疾患の医用画像①	福代　大輔
12	内部疾患の医用画像②	福代　大輔
13	精神障害の医用画像①	福代　大輔
14	精神障害の医用画像②	福代　大輔
15	まとめ	福代　大輔

教 科 書 参 考 書	標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　デジタル教科書 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学　別巻　画像評価　第 1 版, 医学書院, 2021. デジタル教科書
授業方法	講義・演習
使用機材	パソコン、プロジェクター
成績評価	定期試験 100％
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	作業療法治療学1 （脳血管障害総論）	2	2	前期

担当教員	福代　大輔	実務経験	作業療法士として身体障害分野の臨床経験 あり。

内　　容	脳血管障害は、作業療法の重要な対象となっている。 本講義では、脳卒中の病態や障害像を理解し、作業療法の実践を行うための基本的な知識と介入に必要な考え方を習得する。

到達目標	神経系の構造と機能について説明できる。 脳血管と脳の支配領域について説明できる。 脳血管障害の病態や障害像について説明できる。 脳血管障害の予後について説明できる。

授業計画

1	神経系の構造と機能①
2	神経系の構造と機能②
3	神経系の構造と機能③
4	神経系の構造と機能④
5	脳血管と支配領域①
6	脳血管と支配領域②
7	脳梗塞とは
8	アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳梗塞
9	ラクナ梗塞、一過性脳虚血発作
10	Wallenberg 症候群、頸動脈狭窄症、小脳梗塞
11	脳出血とは
12	被殻出血、視床出血、脳幹出血、小脳出血
13	皮質下出血、脳動脈瘤、くも膜下出血
14	脳動静脈奇形、もやもや病
15	脳画像の読み方

教 科 書 参 考 書	教科書:病気が見える⑦　脳・神経 参考書:リハ実践テクニック　脳卒中

授業方法	講義、演習

使用機材	パソコン、プロジェクター、脳模型

成績評価	定期試験 100%

留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	作業療法治療学2 （脳血管障害各論）	2	2	後期

担当教員	福代　大輔	実務経験	作業療法士として身体障害分野の臨床経験あり。

内　　容	脳血管疾患後の片麻痺患者に対する作業療法に必要な脳科学の基礎知識や予後を予測する必要性について学ぶ。 基本動作訓練と ADL 動作の繋がりや上肢機能訓練と ADL 動作の繋がりについて、必要に応じて実技を行い、学びを深める。

到達目標	他職種連携の必要性について説明できる。 運動学習を考慮した訓練内容を模倣できる。 生活障害の改善との繋がりを考慮した訓練内容を模倣できる。

授業計画

1	脳科学をリハビリへ①
2	脳科学をリハビリへ②、予後を予測し目標設定する必要性①
3	予後を予測し目標設定する必要性②
4	急性期・回復期における作業療法士の役割と他職種連携の必要性①
5	急性期・回復期における作業療法士の役割と他職種連携の必要性②、 片麻痺の ROMex
6	片麻痺の ROMex、片麻痺の寝返りから起き上がり ～ADL 動作との繋がりを考える～
7	片麻痺の座位（静的・動的） 評価と訓練の繋がり① ～ADL 動作との繋がりを考える～
8	片麻痺の座位（静的・動的） 評価と訓練の繋がり② ～ADL 動作との繋がりを考える～
9	片麻痺の立ち上がり、立位バランス
10	片麻痺の立位バランス ～ADL 動作との繋がりを考える～
11	片麻痺の上肢に対する訓練 評価と訓練の繋がり ～ADL 動作との繋がりを考える～
12	片麻痺の上肢に対する訓練 評価と訓練の繋がり ～ADL 動作との繋がりを考える～
13	片麻痺の手指に対する訓練 評価と訓練の繋がり ～ADL 動作との繋がりを考える～
14	片麻痺の手指に対する訓練 評価と訓練の繋がり ～ADL 動作との繋がりを考える～
15	まとめ

教科書 参考書	教科書:リハ実践テクニック 脳卒中、脳卒中機能評価・予後予測マニュアル 参考書:エガース・片麻痺の作業療法
授業方法	講義、演習
使用機材	パソコン、プロジェクター、脳模型
成績評価	定期試験 100％
留意点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	作業療法治療学3 （高次脳機能障害）	2	2	前期

担当教員	吉田倫子、仙田春菜、門脇康浩	実務経験	作業療法士として業務に従事 言語聴覚士として業務に従事

内　　容	脳疾患や脳外傷などに起因する高次脳機能障害について、神経解剖や神経機能を復習しながら、症候や障害像をまとめ、評価や介入の方法について学習する。また、演習を通してアプローチについて学ぶ。

到達目標	① 障害特性について説明できる。 ② 障害ごとの予後について説明できる。 ③ 障害ごとの作業療法について説明・模倣できる。 意識・情動の障害、注意の障害、記憶の障害、認知の障害、言語の障害 思考の障害、行為の障害、遂行機能の障害

授業計画

1	高次脳機能障害の基礎知識、高次脳機能障害の脳の障害部位と症状	吉田　倫子
2	失語症とは、分類と症状、病巣	門脇　康浩
3	失語症の評価（スクリーニング、診断的検査、治療的介入）	門脇　康浩
4	失行①概念と病巣、検査と評価・評価結果の解釈	吉田　倫子
5	失行②治療的介入	吉田　倫子
6	注意障害①概念と病巣、分類検査	仙田　春菜
7	注意障害②評価治療的介入	仙田　春菜
8	失認①概念、障害と病巣	仙田　春菜
9	失認②検査と評価	仙田　春菜
10	失認③治療的介入	仙田　春菜
11	半側空間無視①（方向性注意障害）①概念と病巣、検査と評価、治療的介入	吉田　倫子
12	半側空間無視②治療的介入	吉田　倫子
13	前頭葉症状、遂行機能障害、記憶障害①概念と病巣、検査と評価、治療的介入	吉田　倫子
14	前頭葉症状、遂行機能障害、記憶障害②治療的介入	吉田　倫子
15	患者・家族支援（社会資源の利用について）	仙田　春菜

教科書 参考書	標準作業療法学　専門分野　高次脳機能作業療法学　医学書院　電子版
授業方法	講義、演習
使用機材	パソコン、プロジェクター、脳模型
成績評価	定期試験と提出課題を総合して判断
留意点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	作業療法治療学4 (整形疾患)	2	2	後期

担当教員	陶山　幸弘	実務経験	作業療法士として身体障害分野での臨床経験あり

内　　容	整形外科疾患における作業療法士の評価・治療について、本講義で学ぶ

到達目標	① 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。 ② 疾患ごとの予後について説明できる。 ③ 治療原理について説明できる。 関節可動域の拡大、筋力の維持・増強、感覚・知覚再教育、物理療法の基礎 ④ 疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。 脊髄損傷、末梢神経損傷、関節リウマチ、骨関節疾患、手外科、熱傷

授業計画

1	オリエンテーション
2	頚椎症
3	腱板損傷
4	腱板損傷(治療)
5	手の外科(評価①)
6	手の外科(評価②)
7	手の外科(骨折)
8	手の外科(腱損傷)
9	手の外科(末梢神経損傷)
10	手の外科(治療)
11	リウマチ
12	リウマチ
13	脊髄損傷
14	脊髄損傷
15	テスト対策

教科書 参考書	教科書 :標準作業療法学　専門分野　身体機能作業療法学／医学書院(デジタル教科書) 参考書 :病気がみえる Vol. 11　運動器・整形外科／メディックメディア

授業方法	講義、必要に応じて実技

使用機材	パソコン、プロジェクター

成績評価	定期試験(70%)、小テスト(30%)

留意点	

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	作業療法治療学5 (神経筋疾患)	2	2	前期

担当教員	森脇　繁登	実務経験	作業療法士として身体障害分野での臨床経験あり

内　　容	神経筋疾患の多くは厚生労働省の定める特定疾患、いわゆる神経難病である。 本講義は、作業療法士が関わることの多いパーキンソン病をはじめ脊髄小脳変性症、 筋萎縮性側索硬化症、末梢神経障害を中心に、疾病構造、障害構造を学習していく。 さらに、各疾患の評価や実践を知ることで作業療法の重要性を理解していく。
到達目標	① 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。 ② 疾患ごとの予後について説明できる。 ③ 治療原理について説明できる。 ④ 疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。 神経変性疾患(パーキンソン病、ALS、脊髄小脳変性症等) 神経筋疾患(MS、ギランバレー症候群、重症筋無力症等)

授業計画

1	神経筋疾患概論
2	パーキンソン病の病態生理
3	パーキンソン病の評価・治療
4	パーキンソン病の作業療法
5	脊髄小脳変性症の病態生理
6	脊髄小脳変性症の評価・治療
7	脊髄小脳変性症の作業療法
8	筋萎縮性側索硬化症の病態生理
9	筋萎縮性側索硬化症の病態生理評価・治療
10	筋萎縮性側索硬化症の作業療法
11	末梢神経障害とその他(ギランバレー症候群、多発性硬化症など)
12	末梢神経障害とその他の評価と治療
13	意思伝達演習
14	スイッチ作成演習
15	まとめ

教科書 参考書	標準作業療法学　専門分野　身体機能作業療法学　医学書院　岩崎テル子(デジタル教科書) 神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ　メジカルビュー社　田中勇次郎(デジタル教科書)
授業方法	講義、演習
使用機材	パソコン、プロジェクター
成績評価	定期試験 70%、提出物(課題・レポート)10%、態度、実習参加の意欲など 20%
留意点	適宜、テーマを指定してレポートを提出してもらいます。

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	作業療法治療学 6 （老年期障害）	2	2	前期

担当教員	石倉　健一	実 務 経 験	老年期分野での実務経験あり

内　　容	高齢期における対象者の心身機能の変化や、それに伴って起こる生活上の動作や行動、行為への援助方法について学習する。 高齢社会といわれるわが国の状況を把握し、障害を持つ高齢者及び現在健康である高齢者への関わりを含めて作業療法がどうあるべきか、また実際について学ぶ。
到達目標	① 高齢者の特性について説明できる。 ② 高齢者の状況に応じた作業療法について説明・模倣できる。 健康高齢者 虚弱高齢者 身体障害を持った高齢者 精神障害を持った高齢者 認知症

授業計画

1	高齢社会、高齢社会の現状、現在の高齢者の現状
2	社会制度、高齢期の作業療法
3	老年病・老年症候群
4	高齢期の生理的・身体的・心理的・精神的特徴
5	高齢期に多い疾患と高齢者に特有の評価スケール
6	高齢期と介護、介護者のボディメカニクス
7	高齢期のリスク、リスクマネジメント
8	認知症の基礎、状態像(動画から)
9	認知症の分類(ATD・VTD・FLTD・DLB)
10	認知症の症状、BPSD
11	認知症に特有の評価スケール
12	認知症高齢者に対する作業療法的介入
13	嚥下障害の基礎、嚥下のメカニズムとその障害像
14	吸引の基礎知識と方法
15	廃用症候群、褥瘡・拘縮予防

教科書 参考書	標準作業療法学　専門分野　高齢期作業療法学, 医学書院（デジタル教科書） 標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　老年学, 医学書院(デジタル教科書)
授業方法	講義、実技
使用機材	パソコン、プロジェクター
成績評価	定期試験 100％
留 意 点	復習は必ず行うこと。

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	作業療法治療学7 (呼吸・循環・末梢神経障害)	2	2	後期

担当教員	平野　正樹、田中　雅文 看護科教員	実務経験	作業療法士として身体障害分野での経験あり

内　　容	呼吸器疾患、循環器疾患、末梢神経損傷について、講義を通して各疾患別に関する疾患特性について理解を深める。 疾患ごとの作業療法について、講義・実技を通して、理解を深め、訓練方法や ADL 指導のポイントについて学ぶ。 また、臨床現場で必要となる喀痰吸引について講義・演習を行う。
到達目標	①　呼吸器疾患、循環器疾患、末梢神経損傷の疾患特性について説明できる。 ②　評価・検査(画像・生理検査含む)、診断について説明できる。 ③　疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。 ④　疾患ごとの予後について説明できる。 ⑤　疾患ごとの作業療法について、説明・模擬実施できる。 ⑥　喀痰吸引について、説明・模擬実施できる。

授業計画

1	呼吸ケアのための基礎知識	平野　正樹
2	呼吸理学療法	平野　正樹
3	呼吸理学療法	平野　正樹
4	作業療法士が行う呼吸リハビリテーション	平野　正樹
5	作業療法士が行う呼吸ケアの実際①	平野　正樹
6	作業療法士が行う呼吸ケアの実際②	平野　正樹
7	心臓リハビリテーションに必要な循環器系の構造と理解	田中　雅文
8	心臓リハビリテーションの概要	田中　雅文
9	虚血性心疾患・心不全における作業療法(評価・治療)	田中　雅文
10	心臓手術後、大動脈疾患・末梢動脈疾患の作業療法(評価・治療)	田中　雅文
11	末梢神経損傷の概要	田中　雅文
12	末梢神経損傷における作業療法評価	田中　雅文
13	末梢神経損傷における作業療法プログラム	田中　雅文
14	喀痰吸引について①	看護科教員
15	喀痰吸引について②	看護科教員

教科書 参考書	①石川朗：作業療法士のための呼吸ケアとリハビリテーション，中山書店，石川朗 (デジタル教科書) ②岩崎テル子：標準作業療法学　専門分野　身体機能作業療法学，医学書院 (デジタル教科書)
授業方法	講義、必要に応じて実技
使用機材	パソコン、プロジェクター、呼吸器模型、心臓模型
成績評価	定期試験(100%)
留意点	復習は必ず行うこと。適宜、小テストを行います。

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	作業療法治療学8 （発達障害）	2	2	前期

担当教員	石飛　優	実務経験	作業療法士として発達障害分野の臨床経験あり

内　　容	発達障害領域の作業療法は、乳幼児期から成人期までと幅広く関わる。本講義では、発達障害領域の主な対象となる疾患の特性・作業療法評価の視点を理解し、計画立案までの流れを学ぶ。また、それぞれのライフステージに応じた作業療法の進め方について知識を深める。
到達目標	① 発達障害領域の作業療法について理解できる。 ② 各疾患の病態像や特性を理解できる。 ③ 疾患ごとの評価と作業療法について理解できる。

授業計画

1	子どもの発達と作業療法(総論)
2	特別支援教育(地域・教育機関における作業療法)
3	感覚統合療法①
4	感覚統合療法②
5	知的発達障害:ダウン症他
6	神経筋疾患:筋ジストロフィー他
7	整形系疾患:腕神経叢麻痺、二分脊椎他
8	脳性麻痺・重症心身障害①
9	脳性麻痺・重症心身障害②
10	脳性麻痺・重症心身障害③
11	神経発達症①:自閉症スペクトラム障害(ASD)
12	神経発達症②:注意欠如多動症(ADHD)・発達性協調運動障害(DCD)
13	神経発達症③:限局性学習症(SLD)
14	まとめ・グループワーク・試験対策
15	まとめ・グループワーク・試験対策

教 科 書 参 考 書	標準作業療法学　専門分野　発達過程作業療法学　第 3 版(デジタル教科書)
授業方法	講義、グループワーク、演習
使用機材	パソコン、プロジェクター、配布資料、必要時にスピーカー
成績評価	定期試験
留 意 点	・定型発達や小児科の概論等については 1 年次の講義を参考に復習しておいてください。 ・試験対策は、試験に向けて、他者と協力し、知識を共有することを目的とします。小グループで互いに教え合いながら復習します。 ・講義の進行状況によっては、課題・レポート等を作成していただく可能性もあります。

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	作業療法治療学 9 （精神疾患総論）	4	2	前期

担当教員	片山　優子 杉原　純子	実務経験	精神科作業療法分野で実務経験のある教員が 講義を行う。

内　　容	精神科における対象疾患の基礎知識、それに対する作業療法の実践について講義、演習を通して理解を深める。 また、精神科作業療法における評価や集団作業療法について、講義、演習を通して学ぶ。

到達目標	精神科作業療法の進め方について説明できる。 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。 疾患ごとの予後について説明できる。 疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。

授業計画

1	精神の病とは、処遇と歴史	16	自己の治療的活用、作業・作業活動の用い方
2	精神科作業療法の進め方（情報収集、面接）	17	集団・場、ひとと集団
3	精神科作業療法の進め方（観察、検査）	18	生活技能と集団/集団の利用
4	精神科作業療法の進め方（計画立案・実施）	19	パラレルな場とその利用
5	精神障害の基礎知識①	20	作業療法と集団・場
6	精神障害の基礎知識②	21	集団プログラムの計画と評価①
7	精神薬理学①	22	集団プログラムの計画と評価②
8	精神薬理学②	23	作業療法における集団プログラムの実際①
9	統合失調症の理解（概念、症状、分類）	24	作業療法における集団プログラムの実際②
10	統合失調症の理解（病因、経過、予後）	25	気分障害の理解①
11	統合失調症の作業療法（急性期）	26	気分障害の理解②
12	統合失調症の作業療法（回復前期）	27	気分障害に対する作業療法の展開①
13	統合失調症の作業療法（回復後期）	28	気分障害に対する作業療法の展開②
14	統合失調症の作業療法（維持期）	29	気分障害に対する作業療法の展開③
15	統合失調症の作業療法（維持期～終末期）	30	気分障害に対する作業療法の展開④

教 科 書 参 考 書	標準作業療法学　専門分野　精神機能作業療法学　医学書院　新宮尚人(デジタル教科書) 精神障害と作業療法　第 3 版　治る・治すから生きるへ　三輪書店　山根寛(デジタル教科書)

授業方法	講義・演習

使用機材	パソコン、プロジェクター、配布資料

成績評価	定期試験(100%)

留 意 点	復習は必ず行うこと。適宜、小テストを行います。

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	作業療法治療学 10 （精神疾患各論）	4	2	後期

担当教員	杉原　純子	実務経験	精神科作業療法分野での実務経験のある教員が講義を行う。

内　　容	精神科における対象疾患の基礎知識、それに対する作業療法の実践について講義、演習を通して理解を深める。 また、精神科作業療法における評価や集団作業療法について、講義、演習を通して学ぶ。

到達目標	精神科作業療法の進め方について説明できる。 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。 疾患ごとの予後について説明できる。 疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。

授業計画

1	オリエンテーション	16	境界性パーソナリティ障害の理解
2	神経症の理解（定義・分類の理解）	17	境界性パーソナリティ障害の作業療法①
3	パニック障害の理解と作業療法	18	境界性パーソナリティ障害の作業療法②
4	解離性（転換性）障害の理解と作業療法	19	境界性パーソナリティ障害の作業療法③
5	強迫性障害の理解と作業療法	20	摂食障害の理解
6	神経症の作業療法の実際	21	摂食障害の作業療法①
7	依存症の理解①(診断基準・分類・病因)	22	摂食障害の作業療法②
8	依存症の理解②（治療・経過・予後）	23	摂食障害の作業療法③
9	アルコール依存症に対する作業療法①	24	地域生活支援と作業療法①
10	アルコール依存症に対する作業療法②	25	地域生活支援と作業療法②
11	薬物依存症に対する作業療法①	26	医療観察制度と作業療法
12	薬物依存症に対する作業療法②	27	生活技能訓練（SST）について（演習）
13	依存症の作業療法の実際	28	精神科作業療法の理論・モデル①
14	精神遅滞の理解と作業療法の支援	29	精神科作業療法の理論・モデル②
15	発達障害の理解と作業療法の支援	30	精神科作業療法の関連療法

教 科 書 参 考 書	標準作業療法学　専門分野　精神機能作業療法学　医学書院　新宮尚人(デジタル教科書) 精神障害と作業療法　第 3 版　治る・治すから生きるへ　三輪書店　山根寛(デジタル教科書)

授業方法	講義・演習

使用機材	パソコン、プロジェクター、配布資料

成績評価	定期試験(100%)

留 意 点	復習を必ず行うこと。 適宜小テストを行います。

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	日常生活活動学	2	2	後期

担当教員	北山　朋宏	実務経験	作業療法士として臨床業務に従事

内　　容	日常生活活動について、自身の生活と照らし合わせながら、日常生活別の特徴を学ぶ。また、日常生活活動の観察、評価表を用いた活動分析、記録方法、支援方法について演習を通して学ぶ。

到達目標	①日常生活活動の概念について説明できる ②日常生活活動の評価について説明できる ③活動別の支援について説明・模擬実施できる ④福祉用具種別に応じた支援の実際について説明できる

授業計画

1	日常生活活動の概念・意義・範囲について
2	国際生活機能分類(ICF)の基本的特徴と日常生活活動
3	対象者が抱える基本的日常生活動作の分析(食事)
4	対象者が抱える基本的日常生活動作の分析(食事)
5	対象者が抱える基本的日常生活動作の分析(整容)
6	対象者が抱える基本的日常生活動作の分析(整容)
7	対象者が抱える基本的日常生活動作の分析(更衣)
8	対象者が抱える基本的日常生活動作の分析(更衣)
9	対象者が抱える基本的日常生活動作の分析(排泄)
10	対象者が抱える基本的日常生活動作の分析(排泄)
11	対象者が抱える基本的日常生活動作の分析(入浴)
12	対象者が抱える基本的日常生活動作の分析(入浴)
13	対象者が抱える基本的日常生活動作の分析(調理)
14	対象者が抱える基本的日常生活動作の分析(調理)
15	まとめ

教科書 参考書	標準作業療法学　専門分野　日常生活活動・社会生活行為学　医学書院　電子版
授業方法	講義・実技・演習
使用機材	パソコン、プロジェクター、DVD
成績評価	定期試験試験(100%)、
留意点	臨床現場において、日常生活場面の患者様を観察評価することがとても重要となります。演習を通して、観察評価し、記録をすることができることを目標とします。また、能動的に学ぶ姿勢を求めます。

科目区分	教育内容	科 目 名	単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	義肢装具学	2	2	前期

担当教員	北山　朋宏	実務経験	作業療法士として臨床業務に従事

内　　容	義肢装具は、人々の生活を機器で代用する適合技術である。そして、物理学や運動学の原理、材質が基礎にあり、種々のものが研究、開発されている。義肢装具の基本的知識を中心に学習し、作業療法との関連を含めて理解を深める。
到達目標	①　義肢装具に関わる作業療法士の役割について説明できる。 ②　上肢切断について説明できる。 ③　義手の基本構造について説明できる。 ④　義手の適合判定について説明できる。 ⑤　筋電義手について説明できる。 ⑥　下肢切断・義足について説明できる。 ⑦　上肢装具について説明できる。 ⑧　スプリントについて説明・作成できる。 ⑨　下肢装具について説明できる。 ⑩　頸椎体幹装具について説明できる。 ⑪　疾患ごとの装具について説明できる。

授業計画

1	義肢装具の基礎知識
2	装具総論
3	装具(脳卒中片麻痺)
4	装具(整形外科治療)
5	装具(脊髄損傷、関節リウマチ)
6	装具(末梢神経障害、小児用)
7	切断総論
8	義肢総論
9	義肢(大腿、下腿)
10	義肢(義手)
11	義肢(義手)
12	義肢(義手)
13	車椅子
14	自立支援用具
15	まとめ

教科書 参考書	標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学　別巻　義肢装具学　医学書院　電子版
授業方法	講義
使用機材	適宜
成績評価	定期試験(100%)
留意点	

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
専門分野	作業治療学	義肢装具学実習		1	2	後期
担当教員	中村　宣郎、鎌田　智彦 後藤　開	実務経験	義肢装具士として臨床現場に従事			
内　　容	義肢・装具の実際について講義と実習を併用しながら理解を深める					
到達目標	①　義肢装具に関わる作業療法士の役割について説明できる。 ②　上肢切断について説明できる。 ③　義手の基本構造について説明できる。 ④　義手の適合判定について説明できる。 ⑤　筋電義手について説明できる。 ⑥　下肢切断・義足について説明できる。 ⑦　上肢装具について説明できる。 ⑧　スプリントについて説明・作成できる。 ⑨　下肢装具について説明できる。 ⑩　頸椎体幹装具について説明できる。 ⑪　疾患ごとの装具について説明できる。					

授業計画

1	下肢装具 1
2	下肢装具 2
3	上肢装具 1
4	上肢装具 2
5	体幹装具 1
6	体幹装具 2
7	下腿義足、サイム義足、足根義足のメカニズム 1
8	下腿義足、サイム義足、足根義足のメカニズム 2
9	大腿義足、膝義足、股義足のメカニズム 1
10	大腿義足、膝義足、股義足のメカニズム 2
11	前腕義手、上腕義手、肩義手のメカニズム 1
12	前腕義手、上腕義手、肩義手のメカニズム 2
13	スプリント・上肢の補装具について①
14	スプリント・上肢の補装具について②
15	スプリント・上肢の補装具について③
16	レポート作成

教 科 書 参 考 書	標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学　別巻　義肢装具学　医学書院　電子版
授業方法	講義、実技
使用機材	パソコン、ビデオ
成績評価	定期試験(100%)
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
専門分野	地域作業治療学	地域作業療法学 (福祉用具、職業関連活動)		2	2	後期
担当教員	田中　雅文	実務経験	作業療法士として臨床業務に従事			
内　　容	地域包括ケアシステムの構築に向け地方自治体の積極的な取り組みが行われている。しかし、地域におけるリハビリテーションは自由度の高さから経験知も求められる。本講義は対象児者の在宅生活における救急時の対応から看取り、就労支援まで幅広い作業療法士の取り組みを紹介し、医療・保健・福祉、就労の機能連携を理解することを目的としている。また、社会保障制度や福祉サービスの知識をふまえた作業療法士の役割についても学生と共に考えていくことをねらっている。					
到達目標	①　地域リハビリテーションの概念、理念、目的について説明できる。 ②　地域作業療法を支える法制度について説明できる。 ③　実践の場に応じた作業療法について説明・模擬実践できる。 ④　主たる福祉用具について体験し、適用や選定ができる。 ⑤　簡単な自助具を作成できる。 ⑥　職業の定義とキャリア発達について説明できる。 ⑦　職業リハビリテーションの理念・意義、職業支援に関する理論について説明できる。 ⑧　障害者の就労制度について説明できる。 ⑨　就労支援における作業療法(士)が果たす役割が説明できる。 ⑩　就労ニーズをもつ障害者に対する作業療法評価と介入の方法を理解できる。					

授業計画

1	オリエンテーション(地域作業療法について:歴史・理念・目的・機能と役割)
2	地域で生活することの意味(OT の視点から捉えた「地域」とは、「生活」とは)
3	ライフステージごとの生活特性と健康・生活ニーズ(乳児期～学童期～思春期)
4	ライフステージごとの生活特性と健康・生活ニーズ(青年期～壮年期～老年期)
5	生活支援に関連する法制度・施策
6	介護老人保健施設、介護老人福祉施設における作業療法について
7	通所・訪問作業療法について
8	生活行為向上マネジメントについて
9	車いすの理解と適合、福祉用具の開発と制作
10	職業リハビリテーションの歴史・意義などについて(人にとって仕事・職業とは)
11	日本における障害者雇用の実態について
12	職業リハビリテーションの原理・関連職種について
13	職業リハビリテーションにおける作業療法(士)の機能と役割
14	職業能力に対する評価について
15	まとめ

教 科 書 参 考 書	①標準作業療法学　専門分野　日常生活活動・社会生活行為学　医学書院　電子版 ②標準作業療法学　専門分野　地域作業療法学　医学書院　電子版 ③作業療法学全書　第 12 巻　作業療法技術学 4　職業関連活動　第 3 版　協同医書出版
授業方法	講義
使用機材	パソコン、プロジェクター
成績評価	定期試験(100%)
留 意 点	

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
専門分野	地域作業治療学	生活環境論		2	2	前期
担当教員	北山　朋宏	実務経験	作業療法士として臨床業務に従事			
内　　容	障害者の生活環境を、生活の変化に伴う環境の変遷やライフサイクル、経済環境、行政・制度的環境など多様な側面から捉え、生涯生活環境とリハビリテーションの過程の関係を考慮し、リハビリテーション従事者としての役割や関わり方について学ぶ。主に住宅改造について学ぶ。1)住宅改造における作業療法士の役割が理解できる　2)住宅改造を助言、指導するときの留意点があげられる　3)住宅改造に必要な図面を理解し、簡単な図が描けることを目標にする。またノーマライゼーションや地域リハビリテーションの理念についても学ぶ。				
到達目標	① 建築の基礎について説明できる。 ② 住宅改修の基礎技術について説明できる。 ③ 福祉用具供給システムについて説明できる。 ④ 福祉用具のアセスメントについて説明できる。 ⑤ 福祉用具の安全性について説明できる。 ⑥ 主たる福祉用具について体験し、適用や選定ができる。					

授業計画

1	作業療法と環境整備
2	住宅の機能　建築の基礎知識
3	住宅改造の概念、住宅改造の必要性、住宅改造と作業療法士のかかわり方
4	住宅改造の考え方と工夫、基本的検討事項
5	住宅改造の進め方
6	住宅改造の検討事項
7	住宅改造の検討事項（玄関・トイレ・入浴動作についての演習）
8	住宅改造の検討事項（玄関・トイレ・入浴動作についての演習）
9	障害別住宅改造の留意点（頚髄損傷）
10	障害別住宅改造の留意点（脳血管障害）
11	障害別住宅改造の留意点（関節リウマチ、その他）
12	図面の作成（個別）
13	図面の作成（グループワーク）
14	図面の作成（グループワーク）
15	グループワーク発表

教 科 書 参 考 書	作業療法学全書　作業療法技術学 2 福祉用具の使い方、住環境整備
授業方法	講義・ディスカッション・演習
使用機材	パソコン・ビデオ
成績評価	テストの成績、授業態度、ディスカッション等の発表内容
留 意 点	生活を見る上では大切な内容が多く含まれていると思います。

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
専門分野	臨床実習	見学実習		1	2	後期
担当教員	増原　美紀	実務経験	作業療法士として業務に従事			
内　　容	1 週間の見学実習を実施する。 各実習の前後には、基本的態度や介助方法等に関する OSCE を実施する。 また、実習終了後に実習を通して、学んだ内容の発表を行う。					
到達目標	①　作業療法士としての倫理観や基本的態度を身につける。 ②　通所施設における作業療法士の役割について説明できる。					
授業計画						
実施期間 実施施設 実施内容	1週間 通所リハビリテーション施設または訪問リハビリテーション施設 対象者とのコミュニケーションについて見学・実践を通して、学ぶ。 また、通所施設における作業療法士の役割について理解を深める。					
教 科 書 参 考 書	なし					
授業方法	OSCE、実習、発表					
使用機材	なし					
成績評価	OSCE、発表の内容を総合し、判定する。					
留 意 点	実習時間は事前評価事後評価実習外学習を含めて 40 時間以上 45 時間以内を 1 単位とする。 各実習における実習時間は以下の通りとする。 見学実習（1 単位：45 時間） 実習地 40 時間　事前評価、事後評価、実習外学習 5 時間					

科目区分	教育内容	科 目 名		単位	学年	時期
専門分野	臨床実習	評価実習		5	2	後期
担当教員	増原　美紀	実務経験	作業療法士として業務に従事			
内　　容	5 週間の評価実習を実施する。 実習の前後には、OSCE を実施する。また、実習終了後に症例報告を通して、臨床思考過程の理解状況を確認する。					
到達目標	①作業療法士としての倫理観や基本的態度を身につける。 ②作業療法評価計画の立案ができる。 ③作業療法評価の実施ができる。 ④評価結果を整理し、全体像を把握することができる。 ⑤対象者に合わせた目標を考えることができる。 ⑥対象者に合わせた治療プログラムを立案することができる。					
授業計画						
実施期間 実施施設 実施内容	5週間 身体障害および老年期障害対象の医療提供施設 対象者の評価から治療計画の立案までの臨床思考過程を実践する。					
教 科 書 参 考 書	なし					
授業方法	OSCE、実習、発表					
使用機材	なし					
成績評価	臨床実習地評価と学校評価（OSCE、症例報告）を総合し、判定する。					
留 意 点	実習時間は事前評価事後評価実習外学習を含めて 40 時間以上 45 時間以内を 1 単位とする。 各実習における実習時間は以下の通りとする。 評価実習（5 単位：225 時間） 　実習地 200 時間　　事前評価、事後評価、実習外学習 25 時間					

※このシラバスは１年間大切に保管すること
※各科目の初講日には必ず学校へ持ってくること

学籍番号:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　　名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿